

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

連番	788	例会No.	一般528	内容	(ベーシック登山No.42)六甲・大岩ヶ岳周辺読図例会	実施年月日	2017/11/5	担当者	野原、西村(晶)	
参加者	野原勇、西村晶、小川眞裕美、小椋美佐、岩本和行、保木道代、安岡和子、板谷佳史、大森朋江、飯尾廣子、寄川都美子、神阪洋子、脇本勇二、安本昭久、安本嘉代								参加者数	15
担当者コメント	読図をテーマにした例会も4回目。今回は①標高が低く、地形が顕著でない。②多くのコースが入り乱れ、枝道に迷い込みやすい。③過度に案内表示、テープ等がない。④地形図に表示された登山道に誤り(表示されている道が存在しない、又は道があるのに表示がない)が適度にある。⑤コース入口が分かりにくい。⑥読図に集中できる危険性の少ない山である。以上の選定ポイントを満たした山を探した結果、大岩ヶ岳としました。道場駅前で先ずコンパス使用の基本知識「地形図の正置」と「進行方向の確認」を行い、読図講習スタート。随所で「進行方向の確認」を繰り返し、繰り返しやってもらいました。読図は9割が「進行方向の確認」行為です。またこの「進行方向の確認」行為は歩きながらでもできます。面倒がらずやっください。登山は「現在地確認➡先読み➡ルート維持(進行方向の確認)➡現在地確認➡先読み➡ルート維持……」の繰り返し作業です。また今回は、今までの講習で詳しく取り上げなかった「山座同定」を大岩ヶ岳山頂で実施。使用した地図は昭文社発行の登山地図「山と高原地図 北摂・京都西山」の一部をコピー、加工したものです。登山には地形図がベストですが、登山地図を利用する方も多いと思います。登山地図は収録範囲が広くて「山座同定」に大変役に立ちます。登山地図を見るだけでもある程度の推測はできますが、山座同定をすると推測が確信に変わります。今回の講習に際し、既に交付済のコンパス使用カードの一部に理解しにくい表現がありましたので改定版を交付しました。今後しばらくは私の担当する例会時に持参しますので、交付希望者は遠慮なく申し出てください。 記:野原									
連番	789	例会No.	OP250	内容	大峰山系集中登山 Aコース(観音峰) Bコース(稲村ヶ岳) Cコース(大天井岳) Dコース(山上ヶ岳) Eコース(ハイキング)	実施年月日	2017/11/11~12	担当者	小椋(勝)、山倉、板谷	
参加者	Aコース:板谷佳史、保木道代、村木とも子、安本昭久、黒澤百合子、寄川都美子、(山岳会)宇津大地、伊達香織、山崎香里、伴久美子、佐久間千鶴 Bコース:山倉康次、大石隆生、小川眞裕美、安本嘉代、村浪義光、森本善博、(山岳会)安部泰子 Cコース:杉本康夫、野原勇、小椋美佐、安岡和子、江本恭子、前田守、三原秀元、有永寛、(山岳会)榎哲夫、牧村市和 Dコース:西村晶、脇本勇二、岩本和行、渡辺健、(山岳会)小門友則、榎田誠寛、関田渉、武田直史、植辻康二 Eコース:小椋勝久、村木正人、青木義雄、上原進一、和田良次、神阪洋子、近藤さとみ、和田敬子、川崎喜美子、寺島直子、大森朋江								参加者数	48
担当者コメント	Aコース:みたらい溪谷を訪ねるツアー客等に混じって蛇峠登山口の橋を渡る。肌寒い天気で汗もかかずに観音平へ。その先しばらく急登だが、後ろに現役の若い人がついて来ているので心強い。染みるような紅葉の中を展望台から三角点へと登って行く。その先少し痩せた岩混じりの三塚の稜線を行くと、近づく冬を思わせる北風が吹き抜ける。期待した大峰山系の遠望は全く得られないまま法力峠へ。洞川まで歩いて帰る予定であったので下山を急ぐ。ごろごろ水まで下ってB、Dコースの送迎バスを待って便乗させてもらった。 記:板谷 Bコース:大阪からのバスが少々遅れましたが総勢約50名、ラジオ体操で15周年記念登山の開始です。各パーティーはバス移動で登山口まで出発、我々は小椋パーティーのマイカーにお世話になり母公堂まで送ってもらう。母公堂の守り人らしきおじさんのチェックと注意事項には大石さんらが対応してくれ、10時20分入山。法力峠までは植林の間を登ります、所々に架けられた木製の栈橋は滑りやすく、崩壊したところもあり少々気を遣うところです。小一時間の登りで法力峠で小休止、この辺りまで来ると植林から落葉樹になってきます、心配していた雨もなくまずまずの天気ですが、風が始め手が冷たくなってきました。稲村小屋手前ではますます風が強まり12時35分稲村小屋に到着、公衆トイレの陰で風をしのいで休憩しますが、寒いので早々に出発し13時20分、強風とガスの稲村が岳展望台に到着。ここでも長居は無用と写真撮影後早々に下山を開始しました、あとは下るのみ。休憩を稲村小屋とレンゲ峠下で取りましたが誰もゆっくり座る人もなく、レンゲ坂のガレ道に注意しながら16時大峰大橋へ無事下山しました。久しぶりに会う仲間、初めての人、宴会では昔話やこれから行きたい山の話などで大いに盛り上がりました、準備して下さった方々に、改めてお礼を申し上げます、ありがとうございました。 記:山倉 Cコース:泉州山岳会のお二人を迎え洞川キャンプ場から五番関トンネル入り口までバスで送ってもらう。トンネル横の東屋から五番関まで登ると女人結界門の横で、この門は女性にとってはうらめしい限りの門ではないでしょうか。大天井ヶ岳の山頂は小広場状になっていて休憩するのに丁度良い所です。ここから岩屋峰に行くルートもあるので気を付けないといけない所もあります。小天井岳までは細い尾根で、最後まで踏み跡程度で落ち葉に覆われ気持ちの良く歩くことが出来ます。途中一瞬間の晴れ間で柏原山方面の紅葉が見ることが出来ました。旧小南峠は昔修験者が山上ヶ岳の帰路に利用することが多かったと伝えられていますが、昔の面影はなく祠のみが残っているだけです。このあとも途切れ途切れの踏み跡程度の道であっけなく舗装道路に降り立ち予定より早くキャンプ場に到着しました。 記:杉本(康) Dコース:天気予報では曇り後晴れの予報だが、空を覗くと雲行きがあやしい。大峰大橋からの登山は42年ぶりの登山となる。1時間30分程で洞辻茶屋に到着して小休憩、道を覆うように茶屋が立てられており、中の雰囲気は始めて来た時と変わらないなど感じた。現役の若い人もおられるのでEPEの例会で歩くより、少しスピードを上げながら歩いたので額に汗が流れました。大峰山寺前で小休憩後に笹の生い茂った山上ヶ岳頂上で記念撮影後、細い尾根筋を下りにレンゲ辻に向かいました。レンゲ坂谷の登山道は落ち葉に覆われて滑りやすく荒れている山道で何度も足を滑らせました。現役の若い人たちと話をしながら山を一緒に歩いて楽しかったし、気持ちが良かった山歩きであった。 記:西村(晶)									

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

Eコース:送迎バスが遅れたため 出発が遅れる中、最後のEコースがようやく出発できるようになり、管理事務所前で挨拶をすませ出発する。このコースの参加者は久しぶりに歩く人や、体調の悪さでしばらく休んでいた方が多いので時間をかけてゆっくりと歩くことにする。しばらく里道を歩き自然研究路に入る ここから山道になり紅葉の中、大原山方面に向かう。終わりにかけた紅葉を惜しみながら山道を歩き展望台に着く展望台で昼ご飯を食べて途中カリガネ橋を渡り面不動鍾乳洞方面に向かう。面不動鍾乳洞に着き時間がある事と下山した後の用意などのことを考えると少しゆっくり休憩する。鍾乳洞を後にして下山し途中龍泉寺により紅葉を楽しみながら泊地へ向かった。 記:小椋(勝)

この企画を考え役員会で提案した時点では30人ぐらいの参加者で十分だと思っていました。しかし実際には50人近い参加者が集まり、雨が降ったらどうしようか、食糧計画は？バスの手配は？などと不安が募り当日まで心配で中々休むことができませんでしたが皆さんが手を差し伸べてくれたので無事終わることができました。宴会は板谷代表の挨拶から、泉州山岳会榊田会長の挨拶と乾杯の音頭、山岳会からの参加者の紹介等の後、始まる。最初は各テーブルごとで静かに食事をしていましたが、次第に打ち解け、あっちこちのテーブルに座り山岳会、EPE入り乱れて山談義に花が咲きました。9時になり宴会が終りにちかづくとなかなか誰が言う事もなく皆さんが協力し片付けが始まり就寝に着きました。EPEの皆さん参加して頂いた泉州山岳会の皆さんありがとうございました。又、ハイキングコースの皆さん入浴も行かず早くから夕食の用意ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。 記:小椋(勝)

連番	790	例会No.	一般529	内容	六甲・新穂高とシェール槍	実施年月日	2017/11/19	担当者	紀伊莚本(節)、西村(晶)
----	-----	-------	-------	----	--------------	-------	------------	-----	---------------

参加者	紀伊莚本節雄、西村晶、板谷佳史、寄川都美子、近藤さとみ、保木道代、岩本和行、安本昭久、安本嘉代、脇本勇二、大森朋江、渡辺健							参加者数	12
-----	---	--	--	--	--	--	--	------	----

担当者コメント
新穂高とシェール槍の表題に、六甲という前書きがなければアレアレと戸惑うところでしょう。この地域にハイカラな名前が多いのは、神戸居留地に住いた外国人登山愛好者の名残りと思われれます。幕末から明治の中頃までおよそ150年もの前、何故かせせとハイキングに勤しむ外国人の姿を思い浮かべると、実に微笑ましかぎりです。シェール槍はシェール氏、ドントリッチは(昨年12月の例会)ドント氏の様にです。巡りめぐって平成の今、私共は健やかにハイキングを楽しんでいます。そこには何の荷いも無く、ただ嬉々としてしんどい時はしんどいと云い、美しいものには美しい云う自由で奔放な気持ちが溢れています。そんな境地を分かち合う皆さん、互いひとり一人が大事な仲間たちです。E(エンジョイ)、P(パワフル)、E(エレガント)のもとに今日も一日ハイキングを楽しみました。ありがとうございます。 記:紀伊莚本(節)

連番	791	例会No.	一般530	内容	金剛山地・大日岳〜清井山	実施年月日	2017/11/23	担当者	西村(晶)、山倉
----	-----	-------	-------	----	--------------	-------	------------	-----	----------

参加者	西村晶、山倉康次、安岡和子、小川眞裕美、大森朋江、安本昭久、岩本和行、保木道代、脇本勇二							参加者数	9
-----	--	--	--	--	--	--	--	------	---

担当者コメント
金剛山の地図を広げると頂上に向かう登山道はいくつもあります、大阪方面からだと西面から頂上に向かう登山道が多く登られているように感じます。台風の影響で土砂が流れ込んだ民家の横を通り、石筆橋を渡り葛城登山口より登り始める。前日の雨の影響が残っているのか霧が発生しており、遠くの景色を楽しむ事も出来ず、距離感の近いグレー色の風景を楽しみながら歩く。11月初旬は紅葉で輝いていた国見城跡周辺であったが、木々の葉が落ちて冬への準備が始まる景色を眺めながらセトに向かう。セトを越えて清井山に寄り道をして林道を下りカトラ谷出合に出る、台風21号の影響で黒梅谷林道は数カ所崩壊しており水の恐ろしさを感じました。 記:西村(晶)

連番	792	例会No.	OP251	内容	余呉トレイルの山・柳ヶ瀬山〜椿坂峠〜大黒山〜妙理山	実施年月日	2017/11/25〜26	担当者	板谷、小椋(勝)
----	-----	-------	-------	----	---------------------------	-------	---------------	-----	----------

参加者	板谷佳史、小椋勝久、村木正人、村木とも子、寄川都美子、黒澤百合子、安本嘉代、保木道代、小川眞裕美、村浪義光、江本恭子、渡辺健							参加者数	12
-----	--	--	--	--	--	--	--	------	----

担当者コメント
11/25 椿坂峠に車をデポしに行くと、知らなかったが新しく椿坂トンネルが開通しておりしかも旧道へのゲートは閉鎖されており、車では峠に行けないことが分かった。やむを得ずトンネル北口に駐車して柳ヶ瀬に戻る。時雨模様だがまだ紅葉の残る中を柳ヶ瀬山、玄蕃尾城跡へと登っていく。その先余呉トレイルを辿って行くが踏み跡は薄く雨で酷いぬかるみの道、足元や膝くらいまでドロドロにしながらの登山になった。GPSを携行したがそれでもルート探しに少し苦労しつつ椿坂峠への林道に出た時はホッとしました。
11/26 昨日の紅葉の山とは様子が変わってすっかり冬山状態の大国山の稜線からは敦賀湾と敦賀の街が望まれた。日本海側気象の山ということだ、展望と積雪の様子がそう教えてくれた。村浪さんが以前に下見に来てくれているおかげでスムーズに山頂に立った。冬空ではあるが時折り日が差す天候で暖かい、遠くの展望も良く快調に妙理山への稜線に行く。快調すぎて分岐を通り過ぎてしまったが引き返した後は順調に妙理山へ。午後から厚い冬の雲が出て夕暮れのように暗くなった中を疲れた足を引き摺って椿坂の集落へと下山し、解散としました。 記:板谷

連番	793	例会No.	一般531	内容	朽木・雲洞谷山	実施年月日	2018/11/26	担当者	杉本(康)、野原
----	-----	-------	-------	----	---------	-------	------------	-----	----------

参加者	杉本康夫、野原勇、前田守、神阪洋子、佐藤敏子、岩本和行							参加者数	6
-----	-----------------------------	--	--	--	--	--	--	------	---

担当者コメント
朽木市場の町中はバス停から少し中に入るとレトロな雰囲気漂わせ、タイル舗装の道は明護水車まで続いています。明護坂への入り口が分かりづらく散歩している人に尋ねようやく見つけることが出来た。しばらく歩くと鳥居のある小さな拝殿や近畿自然歩道の標識のところから入ると明護坂へと続く。明護坂峠の大きな切り通しの道は、朽木市場と地子原を結ぶ生活道路のようであったが牛や馬が引く荷車が越えたことと思います。東山手前では釣瓶岳と武奈ヶ岳を望むことが出来、足元にはオオイワカガミと思われる大きな葉がいたる所に生えていて開花の時期は花のじゅうたんを敷き詰めたような綺麗さになることだろうと思います。また枝打ちされた杉の枝と落葉の道はフカフカして歩きやすく気持ちが良いものです。雲洞谷(うとうたに)山山頂からは木々の隙間から蛇ヶヶ峰、武奈ヶヶ岳と釣瓶岳、地蔵谷峰が望めることが出来ました。P621の手前で巻き道に入ってしまうようになるが私たちは左の尾根道を上がることにしました。送電線の下まで来ると展望も開け西側には百里岳方面、眼下には雲洞谷の民家が望まれました。大彦峠(おしことうげ)から広い道を10分程で行き止まりになり下に見える林道めがけ崩れかけた階段の急斜面を下ると林道に降り立ち1時間余りで朽木学校前のバス停に到着し解散としました。 記:杉本(康)

連番	794	例会No.	一般532	内容	和泉山地・南葛城山	実施年月日	2017/12/3	担当者	西村(晶)、板谷
----	-----	-------	-------	----	-----------	-------	-----------	-----	----------

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

参加者	西村晶、板谷佳史、安岡和子、小川眞裕美、大森朋江、保木道代、脇本勇二、村木正人、村木とも子、渡辺健、前田守、和田都子			参加者数	12					
担当者コメント	展望の良い岩湧山から眺める南葛城山は裾野が広くてどっしりとした、なだらかな大きな山です。主稜線の尾根道に上がれば針葉樹の森に包まれた静かな山道を歩く事ができるのが金剛山周辺の山々です。紀伊見荘裏手の山々が青空にとけ込み、広葉樹の紅葉が何とも美しいです、根古谷に入り少し登ると空気が冷たく感じました。12月初旬の山は冬への準備で広葉樹の葉も落ちて木々のすき間から遠くの山を眺める事が出来るので好きな季節です。南葛城山分岐点より南西に延びる林道と山道を進むと背丈程の笹が生い茂る南葛城山に着きました。登山者も少なく静かな山歩きでした。記:西村(晶)									
連番	795	例会No.	一般533	内容	六甲・黒岩谷西尾根～最高峰	実施年月日	2017/12/10	担当者	大石、野原	
参加者	大石隆生、野原勇、脇本勇二、杉本康夫、江本恭子、小椋美佐、神阪洋子、前田守、板谷佳史、佐藤敏子、保木道代、馬場美穂子、藤田喜久江、和田都子、西村晶、安本昭久、安本嘉代			参加者数	17					
担当者コメント	初冬の日差しの中をマイナーなコースで最高峰に登り、住吉川へと下りました。表六甲の最高峰への定番コースは、阪急芦屋川駅から七曲りを経てアンテナ塔の管理道路を登って行くものですが、それだけに登山者も多いので静けさを求めてマイナーなコースをとりました。東おたふく山登山口バス停から日陰に所どころ残る雪を見ながら土樋割峠へ。峠から少し下って黒岩谷と出会うと黒岩谷西尾根の取付き。七曲りを避けて雑木林の中に痩せ尾根や岩場がある尾根を登り切ると、一軒茶屋前の広場に出る。管理道路を行かずに、ここからも静けさを求めて少し遠回り。魚屋道を下り、吉高神社の下手から白石谷の源流部をトラバースする踏跡に入る。雪を載せた熊笹の中の道を辿り、最高峰から北西に延びる尾根を登って最高峰へ。2つの尾根を登っていて出会ったのは合計7人だけだったが、やはりここは登山者が多い。風を避けてアンテナ塔の下でお昼休憩をとり、全山縦走路から西おたふく山を回り込んで住吉川へと下って行く。川の水音を聞きながら左岸道を下るうちに五助堰堤を過ぎ、石切道登山口の先の分岐で阪急御影駅組とJR住吉駅組に別れるために解散とした。記:大石									
連番	796	例会No.	一般534	内容	奈良矢田丘陵・松尾山 歴史探訪シリーズNo.38	実施年月日	2017/12/17	担当者	小椋(勝)、山倉	
参加者	小椋勝久、山倉康次、山下登志子、小川眞裕美、寄川都美子、村木正人、小椋美佐、渡辺健、脇本勇二、寺島直子、三原秀元、安岡和子、大森朋江、和田都子、藤田喜久江、岩本和行、村木とも子、保木道代、安本嘉代、江本恭子、安本昭久			参加者数	21					
担当者コメント	東生駒駅に降りると盆地特有の底冷えだが快晴の天気、集合時間になりそろそろとメンバーが降りてくると総勢21人の大所帯、少し多いなと思いつつも久々の大人数の例会、少しうれしく思いつつも歩き始める。東生駒駅から少し歩き住宅地の間から東へ、ここを登ると矢田丘陵の縦走路になる。縦走路は快適だが景色は望めない。単調な縦走路を30分程度歩くと柵峠に着く、交通量の多い県道を渡り帝塚山大学のキャンパスを東に見ながら歩いて行くと檜峠山 弘法大師堂に着く。石碑とお堂があるが休むところがないので先を急ぐ。季節の忘れ物のような、たわわに実った柿木、雨量計測所を通り過ぎ小笹の辻の休憩所に着く。そこで休憩し松尾山へ 途中、国見台の展望台で昼食を取り松尾山に向かう。松尾山の三角点は送信所の裏手にあり少し分り辛い、松尾山を下山後 松尾寺を経由し椿井城跡へ。椿井春日神社で歴探恒例の講和、嶋左近の話をし、大手門から登城する。やはり上がれば解る立地条件 王寺から平群までの展望、城を築くのも納得する。椿井城跡から竜田川駅へ向かい竜田川駅で解散する。歴探といえども良く歩きました皆さんお疲れ様 記:小椋(勝)									
連番	797	例会No.	OP252	内容	若狭・三十三間山	実施年月日	2017/12/23	担当者	板谷、村浪	
参加者	板谷佳史、村浪義光、小川眞裕美、保木道代、安岡和子、村木正人、村木とも子、岩本和行、小椋美佐、神阪洋子			参加者数	10					
担当者コメント	ローカル線の小浜線ダイヤに間に合わせるためEPE始まって以来最も早朝の乗車時刻となったが、皆さん早起きで出て来ていただいた。登山口で村浪氏とも合流出来て予定通りの登山開始となった。三日前に下見までしてくれた村浪氏の事前情報どおり頂上稜線に出るあたりから積雪が増えて5、60cmはある。氏のつけたトレースに加えて今日は他にも数パーティー登っているので道は出来ている。念のため用意したワカンは無用の荷物となったが、それでも時折り深くもぐる。山頂に着いたのが13時、予定した北への縦走はラッセルとルート探しが必要で無理なので登路を引き返すこととした。帰りの列車にちょうど時刻に十村駅に戻ることができ、解散とした。今年のクリスマス例会は適度な積雪と、しかも暖かい日に恵まれ、余裕をもって雪山を楽しむことができた。記:板谷									
連番	798	例会No.	一般535	内容	加西アルプス・善防山～笠松山	実施年月日	2017/12/24	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者	小椋勝久、野原勇、板谷佳史、村木正人、黒澤百合子、寄川都美子、佐藤敏子			参加者数	7					
担当者コメント	今年最後の例会、山陽本線から加古川線、北条鉄道乗り継ぎ播磨下里駅で下車。乗り継いで来るだけでも2時間を超える道のりはさすがに長く感じる。駅で挨拶を済ませ歩き始める。しばらく県道を歩き下里小学校のバス停から登山口へと取り付く。しばらく雑木林の中を歩き稜線へ出ると、岩盤でできた山塊を望むことができ心も逸る。岩場を慎重に歩き善防山山頂に着く、善防山は赤松義則の八男 則繁が築城したが嘉吉の乱に山名勢に責められ落城したと言われ、その戦いは激しく明治の初めごろまで落ち葉の下に白骨体が見られと言われている。やはり登城すれば立地が分り城を築くのも納得する。以前赤松終焉地を訪れたことを思いだし、歴探もつなげていけば楽しいだろうなと思ひます。善防山から縦走路を歩き古法華寺と向かうトイレをお借りし笠松山へ 笠松山展望台で休憩し権現堂へ向かう。ここからは一般縦走路から外れあまり人は歩いていない為、道が少し荒れている。荒れ果てた権現堂を通り過ぎ長駅へ向かう。長駅はボランティアが管理し趣向を凝らし中々面白い。駅で解散の挨拶をし今年の山行きを締めくくる。今年度最後の山行は低山とは言え変化にとんだ山道で山を堪能できました。記:小椋(勝)									
連番	799	例会No.	一般536	内容	播州・小富士山	実施年月日	2018/1/3	担当者	板谷	
参加者	板谷佳史、三原秀元、岩本和行、前田守、村木とも子、寺島直子、保木道代、黒澤百合子、安本嘉代、安本昭久、小川眞裕美			参加者数	11					

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

担当者コメント	例年正月3日には金剛山が計画されることが多かったのですが、今年は趣向を変えてみました。播州には岩っぼい山が多く、各地に例会が実施されていますが、今回は姫路近郊で交通の便も良い小富士山を中心に一日のコースを考えてみました。幸い好天で暖かな一日となり展望にも恵まれました。200mに満たない低山ですが、途中クライミングも盛り込むことができて、体のなまりがちな年末年始の運動不足解消に一役買うことができたのではないのでしょうか。 記:板谷									
連番	800	例会No.	一般537	内容	新年登山 和泉葛城山	実施年月日	2018/1/8	担当者	野原、西村(晶)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	801	例会No.		内容	2018年度新年会・いよやかの郷	実施年月日	2018/1/8	担当者	小椋(勝)、大石	
参加者	青木義雄、秋田文雄、井倉和代、板谷佳史、上原進一、牛山友幸、牛山恵美子、大石隆生、大森朋江、小川眞裕美、小椋勝久、小椋美佐、翁長和幸、笠松マサエ、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、喜多田恵美子、櫻田克彦、黒澤百合子、神阪洋子、近藤さとみ、寺島直子、中川由紀、永島健一、西野勇治、西村晶、西村美幸、野原勇、馬場美穂子、藤田喜久江、保木道代、榊田誠寛、松田芳治、實操綾子、峯岡宣重、三原秀元、村木とも子、村木正人、森本善博、安岡和子、山倉康次、山下登志子、寄川都美子、脇本勇二、和田敬子、和田晴次、和田都子、渡辺健、渡辺登恵子								参加者数	49
担当者コメント	2年連続の雨。新年ハイキングは何としても実施したいという気持ちもあり、中止の決断を当日まで引きずってしまいました。当日早朝に板谷代表と相談のうえ中止決定。リーダーに急遽連絡を入れハイキング参加予定者全員に電話連絡。「いよやかの郷」での7回目の報告会・新年会開催。今年はハイキングが中止になったため予定より30分早く午後2時00分報告会スタート。例年の如く小椋さんの司会。先ず板谷代表の挨拶に始まり、榊田泉州山岳会会長挨拶、昨年度の例会実施報告、会計報告と進み、創立15周年という節目の年でもあることから、昨年度までの3名を大幅に超える例会最多参加者上位10名の表彰を行いました。受賞者挨拶では印象に残った山と登山を通じて得たことを述べてもらいました。話された内容は各々異なりますが、底に共通していることは苦しさを乗り越え山に楽しみを見いだした喜び、健康に繋がる喜び、今後も体と相談しながら山を続けたい、山に気持ちよく送り出してくれる家族への感謝等溢れていました。その後、新旧役員の発表等を行い、役員を代表して紀伊莚本顧問から挨拶。EPEクラブ創設の経緯とジャン・コストの「新しい人を山の頂に導く」ということは、導いた者にとっても喜びである」という言葉を引いて、役員の方こそ楽しみをいただいているから役員への遠慮はいらない。また長野に移住される西野さんの移住へ至る経緯、松田さんの千日前界隈を歩いて感じたことなど面白おかしく話されました。新年会では板谷代表の挨拶、紀伊莚本顧問の乾杯の後宴会スタート。今回は「いよやかの郷」から竹筒に入った竹酒の提供を受けるなど新しい趣向の他に抽選会なども行われ、例年にも増して大いに盛り上がりました。今回も和田(晴)さんから力作の絵画の提供を受けました。最後に秋田さんの中締めで終了。 記:野原									
連番	802	例会No.	一般538	内容	北摂・鳥飼山～昼ヶ岳	実施年月日	2018/1/14	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、板谷佳史、神阪洋子、寄川都美子、保木道代、小川眞裕美、安岡和子、小椋美佐、寺島直子、近藤さとみ、村木正人、脇本勇二、西村晶、西村美幸、黒澤百合子、江本恭子								参加者数	17
担当者コメント	六瀬支所前バス停から10分ほどで登山口に到着。そこは獣除けの紐が渡してあり、ほとんど人が通った形跡のない荒れた林道をため池の見える処から尾根道へと登る。里山と言っても良いほど人家近くの裏山だがわずかな踏み跡がある程度でもっと登られてもよいのではと思う。上之岳には三角点があり北面は木々の間から猪名川サーキットが見え二輪車の爆音が聞こえる。鳥飼山との峠までも踏み跡らしき道や古い林道がありすんなりとは歩けない。木の枝も邪魔をする。ここから鳥飼山や昼ヶ岳までもわずかに残る道と古いテープが所々にある程度でアップダウンが多く遅々として進まない。昼ヶ岳で予定していたルートは無理と判断し、内田池に向けて下山することにする。ここからも出だしは踏み跡があったが途中から道が消えてしまう。内田池まで来ると車が通れる広い道となり、途中からヘッドランプを出したが波豆川バス停で迎えに来てもらったタクシーに。JR三田駅で解散としました。 記:杉本(康)									
連番	803	例会No.	一般539	内容	金剛山郵便道	実施年月日	2018/1/21	担当者	山倉、森本	
参加者	山倉康次、森本善博、前田守、大森朋江、小椋勝久、小椋美佐、寺島直子、松本明恵、近藤さとみ、小川眞裕美、佐藤敏子								参加者数	11
担当者コメント	奈良県側からの金剛山へのルートはアプローチが不便でありあまり利用されていないようです、今回は戦時中に金剛山へ郵便物を運んだコースを辿ってみました、近鉄御所駅からコミュニティーバスで高天口へ向かうのですが、このバスが市内西回りですほとんど市内巡りの状態で結局高天口に到着した時間は9時15分、きっちり1時間を要しました。晴天の奈良盆地が見渡せるバス停を後にし、高天彦神社へ田舎の舗道を登り9:45、トイレ休憩と参拝を済ませ神社南側の郵便道入口の(崩壊のため通行止め)看板を無視して高天谷林道へ踏み込む、案の定高天滝付近は平成25年の台風被害で崩落していましたが、森本さんが右岸に踏跡を確認し、支尾根う回路へ合流(現在は高天彦神社駐車場から南へ大きく伏見道方向へう回路が設けられているようです)登山者は多く、う回路は結構利用されているようです、整備された主尾根の登山道を登り、11:30ダイトレと合流、一の鳥居をくぐり、12:00頂上広場着、今日は快晴で暖かく登山者も多く金剛山は盛況でした、千早本道を下り13:20千早登山口付近で解散しました。 記:山倉									
連番	804	例会No.	OP253	内容	第16回スキーカーニバル北海道・イン・富良野スキー場	実施年月日	2018/1/21~24	担当者	西村(晶)、大石	
参加者	西村晶、大石隆生、上原進一、和田良次、安本昭久、岡部一郎、安本嘉代、脇本勇二、保木道代、板谷佳史、渡辺健、岩垣寿治、片山純江、安岡和子、笠松マサエ								参加者数	15

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

<p>担当者コメント</p>	<p>ホテルのドアから一歩外に出るとすぐそこはゲレンデです、歩き出すとキュキュキュと雪が鳴っています、粉雪の舞うゲレンデが広がります。全員が揃った所で今日の予定と注意事項の説明をして、白銀のゲレンデに飛び出しました。まっ白なサラサラの雪です、スピードを出して大きく曲がる時にストックを突き体重を少しづつ山側の板に移すとスキー板は自然に曲がりま、スキー板にかかる体重の位置と荷重を変えながら回転を楽しみました。雪質が良いのでしょうか、大石さんの指導のおかげなのか、みなさんの滑りも上達してパラレルターンに近づいてきました所で終了しました。夕食は富良野の町に出て美味しい食事とお酒をいただきました。翌日は強風の為、富良野Zoneはロープウェーと4人乗りのリフトが止まり、リフト1本だけが運行してました、北の峰Zoneは全面運休です。晴れておれば前方に富良野盆地を隔てて白い十勝山連峰を望めながら滑れるのですが残念です。リフトに乗るのに並ぶのはひさしぶりですが10分も待つと乗れます、同じところのゲレンデを何度も滑るのが面白いのだろうかと思いますが、スキー滑降には技術は必要です、急な斜面で回転をして転ばない為の技術が必要なのです、スキーは回数を重ねる毎に上達します。みなさん再度挑戦してみませんか、昔に少し滑った事があるではもったいないです、大石、西村が丁寧にご指導いたします。スキーは楽しいです、皆さん実践してみようではありませんか。 記：西村(晶)</p>				
<p>連番</p>	<p>805 例会No.</p>	<p>一般540 内容</p>	<p>比良・権現山～蓬莱山</p>	<p>実施年月日 2018/1/28</p>	<p>担当者 野原、小椋(勝)</p>
<p>参加者</p>	<p>野原勇、小椋勝久、村木とも子、村木正人、前田守、安岡和子、保木道代、小椋美佐、板谷佳史、有永寛、安本嘉代、黒澤百合子、小川眞裕美</p>				<p>参加者数 13</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>26日夜からの降雪で27日(土)朝は大津市内一面銀世界となり、JR湖西線も一時遅延が生じていました。その降雪も午後には止み、明日例会の実施の目途が立ち一安心。堅田駅前バス停には登山者の長蛇の行列ができており、平までノンストップの臨時バスに乗り込む。平から車道を少し戻りドング谷登山口へ。アラキ峠までツボ足で進み、アラキ峠でワカン装着。今回の例会に備えワカンを購入したメンバーもいました。私自身もここ10数年雪山ではスキーを使っており、ワカンは20年以上使っていない状態。やや不安でしたが身体が覚えており「習うより慣れよ」を実感。アラキ峠から権現山までは一般ルートを外れ、トレースのまったくないルートに突入。やや激しいかとも考えましたが、本当のラッセルを体験してもらうためトップはすべてメンバーに任せました。初めてのラッセルで膝から深い所で腰を超えるラッセルでしたが、今日は風もほとんどなく気象的には恵まれていました。吹雪の中でのラッセルではなかったが、厳しい冬山の一端が分かったと思います。権現山到着は私が見込んだ時間より1時間半近い遅れ。初めてのラッセル体験では仕方がなかったが、今日のような多人数なら疲れる前に次々とトップを交代してスピードアップを図ることを覚えてください。今回私の一番の見込み違いは権現山から先はラッセルは不要だと考えていたこと。他人のトレースを当てにするなど甘い考えでした。一般ルートで先行パーティは全員スノーシューを使っており、我々に比べたら比較にならないほど楽なはずだが遅々として進まない。途中で我々が追い抜くがその前はトレースされておらず、ラッセルがまた必要でした。ホッケ山を少し進んだ辺りで、進行を打ち切り引き返す。時間もないことから予定したビバーク講習は残念ながら出来ませんでした。5日前に新潟県妙高のスキー場で親子2人の遭難事故が発生しました。連絡を受けた救助隊が雪洞を掘ってビバークするよう伝えたとのことですが凍死したようです。この遭難はビバークの方法を知っていれば助かっていたと思われる残念な遭難です。次回講習の課題とします。下山後、タクシーを呼びJR堅田駅で解散。寒い中での7時間の行動、お疲れ様でした。 記：野原</p>				
<p>連番</p>	<p>806 例会No.</p>	<p>一般541 内容</p>	<p>六甲山・東お多福山</p>	<p>実施年月日 2018/2/4</p>	<p>担当者 西村(晶)、杉本(康)</p>
<p>参加者</p>	<p>西村晶、杉本康夫、三原秀元、保木道代、脇本勇二、寺島直子、安本嘉代、寄川都美子、大森朋江、村木正人、西村美幸、和田敬子、翁長和幸、岸田暎子、近藤さとみ</p>				<p>参加者数 15</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>阪急芦屋川駅前の広場は登山者が多く賑やかである、ここを起点に六甲山方面に登られるのだろうか。芦屋川沿いに高座ノ滝までの緩やかな道を進む、手袋をしないと手が冷たく感じるが、2か月後の4月初旬には川沿いの桜が咲く季節になっているんだろうな。高座ノ滝より登山道は岩がゴツゴツしたロックガーデンに登り風吹岩へと向かう、今年は寒気の影響か寒い日々が多く感じる。横池あたりより凍りついた雪道になり滑りやすく足元を確認して慎重に進む。ゴルフ場を横切るあたりより緩やかな登りが続き笹の生い茂った稜線を登れば、東お多福山の頂上に達する。緩やかな笹の生い茂った頂上から神戸港、大阪湾を見渡せると思っていたのだが、木が大きくなったのか眼下の景色が見えなかった。 記：西村(晶)</p>				
<p>連番</p>	<p>807 例会No.</p>	<p>OP254 内容</p>	<p>伊吹山</p>	<p>実施年月日 2018/2/11～12</p>	<p>担当者 山倉、板谷</p>
<p>参加者</p>	<p>山倉康次、板谷佳史、有永寛、保木道代、小川眞裕美、村木とも子、安岡和子、小椋美佐、脇本勇二</p>				<p>参加者数 9</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>2月11日 板谷さんと有永さんに車を出していただき、自分の車と3台で米原駅にて合流メンバーと登山口へ向かう、2010年にスキー場が閉鎖された登山口付近はちょっと寂しく、残された貸しスキーや民宿の看板が往時の賑わいを思い出させる。民家の駐車場に車を預け、20数年ぶりに10時伊吹山に踏み込む、ちょっと心配な空模様です。3合目付近から案の定吹雪状態で、予定の5合目では地吹雪状態、小屋の風下に12時40分テント設営開始し、約2時間で全員がテントに収まりました。有永さんが作ったトイレも夕暮時には雪に埋没、他パーティの2張のテントがありました。夕方には無くなっていました。 2月12日 昨夜は一晚中テントは風でバタバタ状態でしたが皆さん良く寝たようで？朝から元気いっぱいです。7時15分不用品はテントに置き、とりあえず出発。6合目避難小屋に7時30分、風雪とホワイトアウトにトレースはかき消されて膝下ラッセルに終始し稜線へ。ブッシュと稜線の杭柵にはエビのしっぽが発達し、久しぶりの冬山の厳しさを感じさせます。9時20分頂上着、休憩も早々に下山開始。登ってきたトレースも地吹雪でかき消され、慎重に下るうち稜線直下で視界が開け避難小屋付近を登ってくる登山者が自分たちのトレースを続々と登ってきます。10時40分5合目BC帰着、深く埋めた張綱の回収に手間取りテント回収に1時間、13時15分登山口へ下山しました。伊吹山のスキー場は閉鎖されましたが、古くは信仰の山、夏には高山植物、積雪期には山スキーで山頂からの大滑降とまだまだ魅力ある山ではないでしょうか。今回、EPEの山行としては、なかなか体験できない厳しく面白い山行でした。 記：山倉</p>				
<p>連番</p>	<p>808 例会No.</p>	<p>一般542 内容</p>	<p>北摂・歌垣山～妙見山</p>	<p>実施年月日 2018/2/18</p>	<p>担当者 杉本(康)、小椋(勝)</p>
<p>参加者</p>	<p>杉本康夫、小椋勝久、岸田暎子、村木正人、飯尾廣子、安本嘉代、村木とも子、近藤さとみ、三原秀元、江本恭子、寄川都美子、板谷佳史</p>				<p>参加者数 12</p>

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

担当者コメント	前日の温かさから今日は風もあり冬本来の寒さになりました。立春が過ぎて寒いながらも陽の温かさは春を感じられます。歌垣山登山口には「おおさか環状自然歩道」の案内板がありこれから向かう妙見山までのルートが示されています。45分ほどで歌垣山の双耳峰のひとつ男山に到着。山頂は歌垣山広場として整備されていて、東屋やトイレがあり六甲山や妙見山も見渡せ休憩にはちょうど良い広場です。もうひとつの女山には御影石に囲まれた珍しい三角点があり、東側に展望が開けています。ここから1時間ほど歩くと立派なログハウスが現れ、その前で温かい日差しを浴びながら昼食をいただくことにしました。野間大原一帯は田んぼが広がるのどかな山里の風景が見渡せます。妙見奥ノ院の鳥居をくぐり車道を渡ると妙見山への登りになります。すぐに130段の階段が現れ見上げるほどの急勾配で、階段1段の幅が小さく登るには手すりを持たないと危なく感じるほどです。妙見山の三角点は休憩所の「星峰」の裏手にある彰忠碑に追いやられるようにその敷地の隅っこにひっそりとたたずんでいました。妙見山の駐車場を抜けて、下る上杉尾根は展望もきき気持ちの良い尾根歩きになります。車道まで降りると妙見口駅まで花折街道が続いて、街道沿いのかわいらしいお地藏さんに心癒されました。 記:杉本(康)									
連番	809	例会No.	OP255	内容	東北スキー場巡り、その10・蔵王温泉スキー場	実施年月日	2018/2/18~21	担当者	大石、西村(晶)	
参加者	大石隆生、西村晶、岩垣寿治、上原進一、和田良次、脇本勇二、笠松マサエ、保木道代、寺島直子、片山純江、大森朋江、岡部一郎							参加者数	12	
担当者コメント	今回の蔵王、初日は吹雪いていて滑るのを諦めましたが2日目からは天気に恵まれて思う存分に楽しく滑ることができました。ゲレンデマップの端から端まで、全コースではないけれども全ゲレンデをほぼ制覇しました。なかでも、蔵王ロープウェイの地蔵山頂駅からザンゲ坂・樹氷原コースを経て大森ゲレンデまでの標高差900m弱、滑走距離10Kmのロングコース、ノンストップで思いながらも脚がもたないので休み休みでしたが滑り応えがありました。また、全員でトレイン(列車のように、前の人が通った同じところを、後ろの人が順ぐりに連なって滑ること。)にも挑戦しました。パラレル、シュテム、ブルークボーゲンとターン方法はまちまちですが、それなりに見栄えがしました。近い将来、華麗なパラレルターンでトレインができるよう数多く滑り練習に励みましょう。 記:大石									
連番	810	例会No.	一般543	内容	京都一周トレイルー2・東山後半部	実施年月日	2018/2/25	担当者	板谷、大石	
参加者	板谷佳史、大石隆生、大森朋江、保木道代、佐野雅美、杉本康夫、神阪洋子、飯尾廣子、西村美幸、安本嘉代、安岡和子							参加者数	11	
担当者コメント	昨年10月の「京都トレイルー1・東山前半部」が雨天中止になったので今回が初回だがコース途中からのスタートとなった。途中寄り道して見物していきたくなる名所旧跡も多いが、時間の制限もあるし、この一連の例会ではトレイル完全踏破を目指して忠実にコース指路標を辿ることに徹することとした。と言っても、指路標を見落としたり解りにくい分岐があったりして決して油断はできない。今回は大文字山、比叡山への登りがあり結構歩きごたえのあるコースだ。自分の歩数計では39、800歩を示した。4万歩以上をハードの目安にしているのが平地が多いとはいえなかなかの一日だった。天気予報とは違って時折り日が差すほどの暖かな天気だし、予定以下の所要時間で終了できたので満足だった。次回は東山前半部に戻って実施することになるが、春の季節となるので楽しみにしている。 記:板谷									
連番	811	例会No.	一般544	内容	比良・堂満岳	実施年月日	2018/3/4	担当者	山倉、西村(晶)	
参加者	山倉康次、西村晶、安岡和子、和田良次、和田敬子、西村美幸、神阪洋子、安本嘉代、小川眞裕美、板谷佳史、杉本康夫、大森朋江、保木道代							参加者数	13	
担当者コメント	5月中旬の気温の中、8時50分比良駅で挨拶を済ませ舗装道路をイン谷口へ、暑くて汗が出ます、見上げる稜線もあり積雪は見られず、残雪という感じです、林道終点には多くのマイカーが駐車していました、ここでトイレ休憩し大山口へ10時着、この付近から残雪がぼちぼち見られ、いつもの年ならフキノトウがぼちぼち出ているのですが、急激に暖かくなったせいかな？まだ見られませんでした、10時50分青ガレ下の堰堤を左岸にわたって急登が始まります、雪面は踏み固められて登りやすいですが、時々雪を踏み抜いてしまうので注意しながら金糞峠へ11時30分着、休息後東レ新道で堂満岳を目指し出発、しばらく上り、堂満ルンゼ側が切れている上部では慎重に登り12時30分頂上着、琵琶湖方面はカスミがかって対岸の山々も遙かにかすんで見えるだけです、13時前に下山開始、右の谷間に注意し慎重に下降し13時35分金糞峠着、ここからの下りはあまり体重をかけると雪を踏み抜いてしまうので慎重に下ります、青ガレ下に14時10分、大山口を14時40分通過し15時40分比良駅に戻り、解散としました、季節外れの陽気に皆さん体温調整に苦労していたようです、下山時間が予定より1時間ほどかかりましたが、休憩を考慮すると予定通りではないでしょうか。 記:山倉									
連番	812	例会No.	一般545	内容	近江・箕作山~太郎坊山	実施年月日	2018/3/11	担当者	杉本(康)、野原	
参加者	杉本康夫、野原勇、岸田暎子、近藤さとみ、寺島直子、村木とも子、村木正人、大森朋江							参加者数	8	
担当者コメント	JR近江八幡駅から近江鉄道に乗換えのどかな田園風景の中の市辺駅に着くと目の前には船岡山が迫ってくる。県道を渡ったところの阿賀神社から船岡山への登りが始まる。山といっても万葉の森と呼ばれる公園の丘のような処です。少し登った所にはこの地に狩猟に訪れた大海人皇子と額田王が詠んだと言われる歌碑が立っている。舟岡山から一旦田圃の畔道に降りて岩戸山十三仏の参道に入り、ここから急登が始まるが箕作山までは左手に湖東平野や比良山系が見渡せる。箕作山頂からは織山や遠くの伊吹山まで望めます。ここから太郎坊宮への標識に従っていくと太郎坊山と赤神山の2種類の標識が現れ、案内通りに進み木々の間を抜けると目の前に八日市方面がさながらパノラマのように開け、赤神山頂に着いた。ここで大休止を取り素晴らしい景色を眺めながらの昼食は乙なもの。眼下には人陰や車が豆粒のように見えます。太郎坊宮から約740段の階段で麓まで降り、振り返ると赤神山のきれいな三角錐の山容と中腹には太郎坊宮が眺められます。太郎坊宮前駅までの間には桜並木が続く開花の時期には見事な風景になると思います。それとは正反対に太郎坊宮前駅はトタン張りの質素な駅で何か異質な感じがしました。 記:杉本(康)									
連番	813	例会No.	一般546	内容	鞍馬・竜王岳+アルファNo. 22「小町寺(補陀洛寺)」	実施年月日	2018/3/18	担当者	紀伊莚本(節)、秋田	
参加者	紀伊莚本節雄、秋田文雄、翁長和幸、青木義雄、寄川都美子、大森朋江、寺島直子、西村晶、三原秀元、保木道代、上原進一、板谷佳史、横山寿夫、小川眞裕美、安本嘉代、安本昭久							参加者数	16	

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>絶世の美女小野小町の強烈な辞世の句「吾死なば、」に魅かれて、この日のプラスアルファが生まれました。小野小町は平安期に六歌仙のひとりと謳われながら、その生没年は不詳とされ、ときには架空の人物との説もあるぐらいです。つまり今昔多くの人々から彼女の才と美は讃えられ、かつ妬まれしながら連続と今に至ったのでしょう。小野寺はその伝承の場所のひとつです。残念ながら楽しみにしていた当の住職の講話は「お葬式が入りましてな、」と前日に断わりの電話がありました。本堂に閉ざされた小町老衰像(鎌倉期作)は、お留守を頼まれたという妙齢の女性の手で開かれて拝観しました。その他の伝承物は庭先、墓地にいわば野晒ですのご自由にということでした。今流にいう終活を迎えた小町の心境、如何でしたでしょうか、正直なところなぜか男性軍の方がよりデリカシーに揺さぶられたように思いました。 記:紀伊壱本(節)</p>									
連番	814	例会No.	一般547	内容	泉南・昭和山～四石山	実施年月日	2018/3/21	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者	参加者数									
担当者コメント	雨天中止									
連番	815	例会No.	OP256	内容	四国・剣山～次郎笈	実施年月日	2018/3/24～25	担当者	板谷、有永	
参加者	板谷佳史、有永寛、小川眞裕美、保木道代、大森朋江、和田敬子、和田良次、村木とも子、上原進一、和田都子、神阪洋子、安本嘉代、村木正人、江本恭子									
参加者数	14									
担当者コメント	<p>三月の2000m級登山を多くの方に味わって頂きたいと思い、高速路線バスとジャンボタクシーを乗り継いで前日旅館泊で実質日帰り登山となる計画を考えました。宿から見ノ越へ向かうと国道にも剣山スキー場(廃止)跡付近から雪が残っているので、山に入れば期待通り残雪があるだろう。ただし登ってみると、西島から上も例年より残雪量はそうとう少ない印象だ。山頂から次郎笈間の稜線は日当たり良くほとんど残雪が無い。360度の展望を楽しみながらの稜線散歩。毎週のように山に出かけていてもこれだけの大快晴に恵まれるのはめったにないことだ。剣山往復だけでは余りにも簡単すぎるので次郎笈まで足を延ばす計画にしたので、帰りのバス時刻に追われて速足と休憩短縮を強要してしまいましたが、二山登頂で充実した四国の山旅となりました。 記:板谷</p>									
連番	816	例会No.	一般548	内容	播磨・的場山	実施年月日	2018/3/25	担当者	野原、山倉	
参加者	野原勇、山倉康次、三原秀元、近藤さとみ、寺島直子									
参加者数	5									
担当者コメント	<p>今日は大相撲春場所の千秋楽。千秋楽に合わせ相撲の神様「野見宿禰」(のみのすくね)を祀る神社を訪ねる例会を企画しました。なお的場山の属する龍野市の名称自体が野見宿禰に関係しています。大和から故郷出雲への帰途この地で病死した野見宿禰を葬るため、出雲から多くの人が駆けつけ川から石をリレー式に運んで墓を立てたそうです。その時の野に人々が立ち並んだ姿から「野に立つ人→立野→龍野」となったということです。また龍野市といえば「赤とんぼ」の作詞者三木露風の生誕地。駅前には三木露風の銅像が立ち、マンホール蓋も赤とんぼ、至る所に露風と赤とんぼが現れます。今日は「龍野ひなまつり」の最終日で多くの家で「おひな様」が飾られていました。見ているだけで楽しくなります。山に登る前に「三木露風生家」見学。説明書を読んでいると両親の躰の厳しさが伝わってきます。保育園の入園申請書をわずか4歳の露風に一人で持っていかけたということです。その他多くのエピソードが紹介されています。興味のある方は訪ねてみてはいかがでしょうか。また「赤とんぼ」作詞者三木露風の亡くなった日が昭和39年12月29日、作曲者山田耕作が亡くなった日が翌年の同月同日、偶然でしょうが二人に不思議な縁を感じます。龍野城の奥にある登山口からこの丸跡まで急登が続き、鶏籠山山頂(本丸跡)で小休止。その後一旦両見峠まで下降、ジグザグの登りを経て的場山山頂。南面に龍野市街や揖保川の眺望が広がっていました。三角点横で昼食大休止の後、野見宿禰神社に向け下山開始。事前にネットで情報を得ていたので推測できましたが下山口がわかりにくい。入ってしまえば迷うことのない急坂の一本道。野見宿禰神社は石の扉で固く閉じられていました。石の扉も珍しいが、扉には出雲大社宮司の家紋が彫られており故郷出雲との深いつながりが分かります。また東京都内にも野見宿禰神社が建立されていて、ここには歴代の横綱が参拝されているそうです。石段を下った所の展望台で眺望を楽しんだ後、赤とんぼ、夕焼け小焼け、月の砂漠、七つの子など8曲のメロディーが流れる「童謡の小径」を経て、龍野市街を散策しながら本竜野駅に帰着。今日は天気も良くゆったりとした登山日和でした。 記:野原</p>									
連番	817	例会No.	一般549	内容	京都一周トレイルー1・東山前半部	実施年月日	2018/4/1	担当者	板谷、杉本(康)	
参加者	板谷佳史、杉本康夫、江本恭子、小川眞裕美、和田都子、大森朋江、安岡和子、安本嘉代、西村美幸、神阪洋子、野原勇									
参加者数	11									
担当者コメント	<p>例年より1週間ほど早いように思われる桜の開花に合わせてように桜に始まり桜に終わる例会となりました。汗ばむほどの陽気となり日照りのある場所では少々バテぎみとなってしまいうほどでした。また伏見稲荷通過時などは外国人観光客で超満員の中、混雑をかき分けてでした。大した山登りは無いコースなので総じて快適な気持ちのよい一日でした。今回のコース沿いには特に名所旧跡が多いのですが、設定されたトレイルを忠実に辿るという趣旨に従って横目で眺めたのみで先を急ぎましたのでじっくり観ていきたい場所も素通りしてしまった点はお許し願います。 記:板谷</p>									
連番	818	例会No.	OP257	内容	大平良山～日計山 歴史探訪シリーズNo.39 +アルファNo.23	実施年月日	2018/4/7～8	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者	小椋勝久、野原勇、村木正人、村木とも子、近藤さとみ、黒澤百合子、小椋美佐									
参加者数	7									

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

担当者コメント	<p>1日目 雨の可能性があり1日目はエスケープルートが多い大平良山に変更し今回の例会を開始した。曇り空の下 泊地文右エ門の駐車場に駐車し権現峠へと向かう。しばらく余呉湖畔、川並の村中を歩き余呉トレイル登山口へと向かう、登山口からしばらく歩くと林道出合に着く、ここから北に行けば茂山城跡だが今回は南方行に進路を取り権現峠へと向かう。権現峠は余呉から塩津へ向かう旧街道の峠で当時はかなり賑わっていたらしい又、賤ヶ岳の戦では利家がここから反転し福井へと向かう場所で前田家の裏崩れとしても有名だ。権現峠からは快適な尾根道になり山桜、タムシバを眺めながら一時間ほど歩くと大平良山に到着。山頂は展望がなく雨も降りそうなのですぐに出発。大平良山からしばらく歩くと公法寺山に着く、ここからは遊歩道となり飯浦切通しへの急坂を下降し賤ヶ岳へと向かう。前回は切通しから佐久間軍の退却路を泊地へと向かったが今回は切通から賤ヶ岳山頂へ向かう。山頂には桜の古木が有り満開で圧巻だ。しばらく休み下山する。途中歴探恒例の講和を大岩山で行い下山後、湖畔の遊歩道を歩き泊地へと向かう。泊地、文右エ門の夕食は相変わらず豪華だ。鯉の甘露煮、洗い、鯖の馴れずし、近江牛のすき焼き、琵琶湖の珍味等々で満腹 食べすぎのおなかで眠りにつく。</p> <p>2日目 夜中寒冷前線が通過したため今日は少し冬型の気圧配置。泊地から車で日計山登山口へ、路肩に車を止めみぞれが降る中しばらく歩き県道から登山道に入る。関電道を歩き尾根道に出るころには雪へと変わり吹雪いてくる。思ったほど道は悪くなく雪の中日計山へと向かう。日計山に着くころには雪も止み晴れ間ものぞく。日計山で少し休憩をし先を急ぐ。西岡城跡へと向かう快適な尾根道を歩いていると突然、掘切が現われる。かなり深く、尾根からは行くことができないので迂回し城跡へ、しばらく主郭跡を見学し岩熊城跡へ向かう。途中P326で昼食をとり道か道でないような登山道を下降し林道出合いへ。舗装林道出合いからP415へ、小雪がちらつく中、最後の急登をゆっくり登り山頂へ。山頂からひっそりと佇む岩熊城址方面を眺めた後下山し林道から登山道に入り山門の集落へ。集落から県道を歩き車を回収し近江塩津駅へ向かい解散する。西岡城、岩熊城ともに関東から地頭として補任してきた熊谷氏が作ったものとされていますが、天正11年の賤ヶ岳の戦いで丹羽長秀により改修されたのではとされています 記:小椋(勝)</p>									
連番	819	例会No.	一般550	内容 (ベーシック登山No.43)藤原京跡と大和三山周遊ハイク	実施年月日	2018/4/8	担当者	山倉、杉本(康)		
参加者	山倉康次、杉本康夫、野口秀也、安岡和子、板谷佳史、小川眞裕美、江本恭子、前田守							参加者数	8	
担当者コメント	<p>先日の暖かさに比べ今日は1ヶ月季節が戻ったような寒さです。8時 榎原神宮前駅で挨拶を済ませずは神宮参拝に向かいます。今日は榎原神宮周辺で春の神武祭が催されるようで、屋台の準備やイベント関係者が多く見られました。参拝を済ませ参道出口付近から畝傍山への道標を頼りに入山します、道は山を巻くように登り9時頂上へ、地元の人で毎日登っているという方にも会いました。下山後次の目標 天香久山へ向かいます、野口さんに以前歩かれたコースを案内していただきました。天香久山に11時着、左手前に畝傍山、右から二上山、葛城金剛山がきれいに眺められます。次の耳成山へはのんびりと田舎道を歩き、藤原宮跡で11時50分~12時30分の昼休憩後、次に向かいました。耳成山を巻くように登り13時15分本日最後の山頂へ着きました。寒の戻りでちょっと寒い一日でしたが、今日歩いた周辺の歴史神話などを話しながら14時近鉄八木駅に到着し解散としました。 記:山倉</p>									
連番	820	例会No.	一般551	内容 梶谷から高城山	実施年月日	2018/4/15	担当者	紀伊整本(節)、西村(晶)		
参加者	雨天中止							参加者数		
担当者コメント										
連番	821	例会No.	一般552	内容 (ベーシック登山No.44)和泉山脈最西端・高森山から大川峠	実施年月日	2018/4/22	担当者	翁長、板谷		
参加者	翁長和幸、板谷佳史、野口秀也、藤田喜久江、和田都子、片山純江、西村美幸、保木道代、小川眞裕美、村木正人、笠松マサエ、神阪洋子、青木義雄							参加者数	13	
担当者コメント	<p>残念ながら今回は、紀淡海峡の素晴らしい景観を見ることが出来なかった。例会前夜、タクシー会社に予約を申し入れた。「予約は受け付けないし、その辺りではタクシーは一台位しか呼べない」と言われ諦める。急ぎょ板谷さんに車をお願いし、私の車と2台で登山口へ。法然ゆかりの法恩講寺に立ち寄り出発(10:40)。高森山への道はハッキリしている。高森山には12:25着。山頂より西側の和泉山脈主尾根には地図上では登山道がない。「高森山から大川峠には、あんなにしっかりした道があるとは・・・」というインターネット上の情報があったので悪く考えても、けもの道程度のものはあるだろうと思っていた。・・・が、道はなかった。GPSと磁石、地図をフル動員して行きつ・戻りつしながら進む。難儀なハイキングになった。人が通り抜ける位の樹間はあるが、20から40m位しか先が見通せない。主尾根と分かるような顕著な地形ではなく、何となくモヤーとしてコースが判りづらい。シダや熊笹のブシュが少ないのが助かるが、500mを進むのに1時間少々かかった。右往左往しながらも大川峠まで300mの所までやってきた。GPSでは、ここから西方向なのだが急な下りなので、少し南寄りにまきながら行くとする。が少し下り過ぎた。ここまでで全行程の1/2強しか来ていない。すでに15時を過ぎていた。ここで計画を断念する。南西方向の沢筋に古い林道らしき踏み跡が下っている。これを使い大川トンネルへ向かった。1Kmほどのトンネルを抜けると、あかるい春の海が広がっていた。ンビリと海を見ながら車に戻った。17時着。山ではピークの下りで迷う事が多い。今回迷ったのは、まさにその条件と一致する。見通しのない小さなピークの下りで右往左往した。今回とは逆のコースで低い所(深山砲台跡)から高い所(高森山)へのコースであれば違った結果になっていたかも・・・ 記:翁長</p>									
連番	822	例会No.	一般553	内容 和泉山地・楨尾山~猿子城山	実施年月日	2018/4/29	担当者	西村(晶)、翁長		
参加者	西村晶、翁長和幸、前田守、秋田文雄、安岡和子、西村美幸、飯尾廣子、安本昭久、脇本勇二、江本恭子、安本嘉代、上田俊之、片山純江、藤田喜久江、大森朋江、村田和隆							参加者数	16	

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

担当者コメント	滝畑ダム周辺の山々は木々の緑が多くて水も豊かな山域です、山と高原地図の登山コースに記載されていない山道も沢山あります。登山地図を広げながら登れそうな尾根道を見つけて資料を集めるのも楽しみのひとつです、トンネル手前より不明瞭な踏み跡をたどりながら塩降峠まで登り、南に向けてボテ峠まで尾根筋を忠実に進みますが、分岐の所では地図による方向確認が必要です。尾根道は大きな起伏も無く、ゆるい光りが新緑の葉に吸い込まれて木々の緑が穏やかな気持ちにさせてくれました。 榎尾山頂付近へは入山禁止の立て看板がありましたので、エスケープして猿子城山に向かいました。 記:西村(晶)								
連番	823	例会No.	OP258	内容	南ア・鳳凰三山縦走	実施年月日	2018/5/2~5	担当者	板谷、山倉
参加者	板谷佳史、山倉康次、小川眞裕美、小椋美佐、安岡和子、渡辺健、有永寛、保木道代							参加者数	8
担当者コメント	<p>5/3 雨上がりの甲府駅を後にする。夜叉神峠登山口までの車中、山沿いでは雨が残っていたが、歩き始めてしばらくで晴れ間が覗く天気になってきた。天気は回復に向かうようだ、小屋と約束した16時に入れるよう励ましながらひたすら登る。森林限界を越えると強風が吹き抜ける中で、山頂を雲の中にした北岳バットレスと久しぶりの対面が待っていた。明日は好天が期待できる</p> <p>5/4 朝は期待した御来光は拝めず、雲が低く遠望が利かないし、強風で非常に寒い。すぐに薬師岳山頂に立ち、縦走が始まる。稜線西側は強風で寒いので早々に通過、東側に出たら風は当たらず日が差して暖かでのんびりの繰り返しで距離を稼いで行く。残念ながら北岳等、南アのジャイアントは全て上部が雲に閉ざされている。地蔵岳を最後に下降に移ると主稜線東側となり、風も和らぎ暖かい。鳳凰小屋前後の樹林帯は残雪が凍っておりアイゼンを使用し、長い長い降りを経てようやく御座石鉱泉に着いた。甲府駅周辺で入浴を済ませてくつろぎ、再び夜行バスに乗り込んで翌朝帰阪しました。ベテランはかつての北岳や甲斐駒ヶ岳での苦闘に思いを馳せ、中級者は積雪のある長距離縦走に十分な手応えを感じながらの例会となりました。 記:板谷</p>								
連番	824	例会No.	一般554	内容	(ベーシック登山No.45)大和葛城山・長尾道	実施年月日	2018/5/13	担当者	杉本(康)、森本
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天中止								
連番	825	例会No.	一般555	内容	六甲・地蔵谷～摩耶山	実施年月日	2018/5/20	担当者	大石、野原
参加者	大石隆生、野原勇、近藤さとみ、小川眞裕美、寺島直子、大森朋江、神阪洋子、江本恭子、脇本勇二、翁長和幸、三原秀元、西村晶、保木道代、安本昭久、安本嘉代							参加者数	15
担当者コメント	<p>夏日でしたが登り下りとも木陰が多くて風もあり、日差しが強さを感じないで快適に歩きました。もともと、下ってきて市街地に入ると日陰を選んで歩いていましたが、新神戸駅で別発組と合流し、挨拶を済ませて地蔵谷の出合へと歩き出す。ロックガーデンほどではないがやはり登山者が多い。金曜日夜の雨のせいか水量の多い布引雌滝を眺めていると集団登山の中学生たちが追いついてきて、コースは停滞気味。布引貯水池を過ぎてやっと思うようなペースで歩くことができるようになり、地蔵谷の出合へ。地蔵谷に入り、流れに沿った道標完備の登山道を登っていく。涼しげな滝やナメ床を眺め、堰堤を幾つか越え、流れを飛石で何度か渡るうちに谷筋から離れて天狗道に合流する。例会でここを通っているのは何回目だろうかと思いつつ急坂を登り、摩耶山の三角点に着く。三角点でお昼休憩をとり、旧摩耶道へ。ジグザクの登山道を下ると旧天上寺跡で、ここで暫く展望を楽しむ。眼下には神戸港、空気が澄んでいるせいか関空の向こうに友ヶ島まで見える。十分に楽しんだ後には、急な石段の下りが待っていた。その先で瓦葺ではなくトタン屋根に改修された旧山門を過ぎ、山腹を巻くように下る旧摩耶道に入る。今シーズン初めての山紫陽花が咲いていたり、縄張りへの侵入者を追い払うかのようには鳴く鳥の音が聞こえたりと登山道を退屈せずに市街地へと下り、出発地の新神戸駅に戻って今回の例会を終了した。 記:大石</p>								
連番	826	例会No.	OP259	内容	北アルプス・徳本峠と焼岳	実施年月日	2018/5/24~27	担当者	山倉、大石
参加者	山倉康次、大石隆生、小椋美佐、板谷佳史、安岡和子、小川眞裕美、前田守、脇本勇二、渡辺健							参加者数	9
担当者コメント	<p>当初の予定では、徳本峠小屋と焼岳小屋に宿泊予定でしたが、徳本峠小屋は団体予約があり断られたので明神まで下り、嘉門次小屋に泊まりました。焼岳小屋はまだ開いていないので中尾温泉まで下ることにしました。</p> <p>5/25 5時ちょうど、中ノ湯バス停で下車し予約しておいたタクシー2台に分乗し島々谷登山口へ向かいます、ゲート前で朝食と出発準備をして6時島々谷林道へ、少し肌寒いが快晴です、7時20分二股着、途端に団体さんがタクシー2台と4輪駆動車でここまで入ってきました、おそらく今夜の徳本峠小屋の団体さんでしょう、団体さんをしり目に小休止後南沢登山道を沿いに高度を稼いでゆきます。心地よい沢音と新緑の美しいところです、南沢が勾配を増し急流となるころ9時45分岩魚留小屋に到着。小屋は閉鎖されています、ここから道は勾配を増し徳本峠へ、1回の休憩で13時徳本峠着、穂高連峰が眼前に広がり登りの苦労も癒されます、かつての登山家たちもこの景色に魅了されたのでしょうか。30分休憩後今日の泊地明神へ、下降は北面の沢伝いで所々雪渓が現れます、足を取られながらも15時嘉門次小屋に到着、本日は9時間行動でした。</p> <p>5/26 お腹いっぱい朝食をいただき、7時嘉門次小屋を出ました、梓川沿いの右岸遊歩道を1時間で河童橋、観光気分で写真を撮ったり・・・焼岳登山口まで2時間近くかかりました。入り口で休憩後今回2つ目の峠へお花畑の道を出発、樹林が切れる頃10時に休憩、上部は90度近い10mくらいのハシゴのぼりも有り急速に高度を稼いでゆきます。中尾峠へは直接の道は見つからず、焼岳小屋経由で中尾峠へ11時40分着、笠ヶ岳が美しい姿を見せてくれます。下山はここから中尾へ下るのでザックは峠に格好のチムニーを見つけて中へ押しやり空身で焼岳往復に向かいました。ガレ場の登りから一か所雪渓をトラバースし北峰基部へ、落石に注意しながら登ります、硫黄のにおいの中12時35分頂上着。360度の展望が疲れを癒してくれました、13時30分中尾峠に戻り飛騨側中尾温泉へ下山開始、北西面の下降ルートは上高地側と違い残雪も多く足元が不安定です。慎重に下って15時40分ようやく中尾温泉に続く林道にたどり着きました、今日も9時間行動。信州側島々谷から峠を2つ越え、飛騨側中尾温泉まで長い道のりでしたが、中尾温泉で楽しいひと時を過ごせ贅沢な山行でした。翌5月27日は 旅館からタクシーで高山に出て高速バスで帰阪しました。 記:山倉</p>								

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

連番	827	例会No.	一般556	内容	岡山・和気アルプス(表銀座コース)	実施年月日	2018/5/27	担当者	杉本(康)、小椋(勝)
参加者	杉本康夫、小椋勝久、寺島直子、近藤さとみ、大森朋江、神阪洋子、村木正人、飯尾廣子							参加者数	8
担当者コメント	和気駅前から目の前に見上げるほどに迫ってくる和気富士は綺麗な形をした鋭い三角錐の山です。登山口には和気富士まで500mの導標があり登るにつれて展望もよくなり、足下には和気駅や和気町の街並み、金剛川が箱庭のように見渡せます。木が生えていなければ歩くのには緊張するところです。和気富士の山頂付近は戦国末期の山城だったそうで、北曾根城跡といわれ城名は「名黒山城」とも呼ばれていたそうです。観音山の西斜面にはいくつもの赤煉瓦のカマドがあり毎年8月16日午後8時、京都の大文字の送り火に合わせて、「和」の火文字が点火され「和文字焼祭り」が行われるそうです。前ノ峰付近からは岩尾根らしくなり、樹木も疎らになり気温も高く木陰がなければ暑いぐらいで、風が吹くと心地よいです。穂高山や洞沢峰付近は周りのピークが見渡せるほどに展望もよく竜王山への縦走路も一目瞭然です。竜王山もきれいな三角錐のピークです。今日は眺めるだけです。振り返ると和気富士のピークもはっきりと確認できるほど遮るものはありません。神ノ上山はこの山城の最高峰で三角点もあります。ここから山の学校ルートを下っていくと、鎖場が3ヶ所と、緩傾斜の岩場が200mほど続きます。また対面には白石様という岩壁が見え、岩登りの練習場のようで今日は誰も登ってないようです。和気中学校からは和気富士を見ながら和気駅までの舗装道路を遠いな～と思いながら今日の山行を終えました。 記:杉本(康)								
連番	828	例会No.	一般557	内容	(ベーシック登山No.46)読図&緊急時対策講習会	実施年月日	2018/6/2	担当者	野原、翁長
参加者	野原勇、翁長和幸、村木とも子、馬場美穂子、前田守、櫻井宏子、大森朋江、安岡和子、板谷佳史、西村美幸、保木道代、小川眞裕美							参加者数	12
担当者コメント	一昨年に読図講習会、昨年には緊急時対策講習会、そして今回はそれらを統合した講習会を実施しました。今回の講習会をもって、このようなスタイルの座学講習はひとまず終了とします。このような座学をメインとした講習会を計画したきっかけは、私の担当する例会時等の休憩時間を利用してのワンポイント講座にあります。ワンポイント講座を何度か行ってきましたが、短時間の説明では消化不良状態が続いていました。その状態を解消するために過去2回実施してきました。その結果、読図に対しては例会の際に地図とコンパスを持ってくる方が増えたように感じています。今回は前2回の講習会の反省を踏まえて資料も大幅に修正を加え、また一方的な講義にならないように実践を重視しました。読図については国土地理院ウェブサイトからダウンロードした「電子地形図25000」を使用してのコンパス操作などを研修所屋上に登って1時間程度実地にやってもらいました。交付資料には利便性向上が著しいスマホ登山用GPSアプリや電子地形図の購入手続き等新たに説明を加えました。緊急時対策についても講義だけでなく、ツェルトの使用方法、三角巾やレジ袋を使った腕の固定、テーピングによる足首固定、負傷者のザック搬送、心肺蘇生、低体温症対策、シュリングを使った簡易ハーネス、危険地帯の通過方法等出来る限り具体的に体験する実践的な講習を実施。また、メンバーが持ってきたツェルトを実際に使えるようアドバイスしました。今後も持っているだけの装備があれば持参し、リーダーに使い方聞いてください。持っているだけでは何の役にも立ちません。何事もそうですが、自ら積極的に求めない限り得る物はありません。今回交付した資料は100ページを超えるものとなりました。記述には大変厳しい言葉もあります。また内容も多岐にわたっていますが、安全登山するうえで必要な知識です。まだ十分とは言えませんが、実際に事故に遭遇した際には自分のできる範囲で結構ですので行動に移していただきたいと願うばかりです。危機に際して傍観者にだけはならないでください。 記:野原								
連番	829	例会No.	一般558	内容	六甲・逢山峡～雲ヶ岩	実施年月日	2018/6/10	担当者	大石、森本
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天中止								
連番	830	例会No.	OP260	内容	北飛驒・天生峠から天生湿原と粳糠山	実施年月日	2018/6/16～17	担当者	山倉、小椋(勝)
参加者								参加者数	
担当者コメント	国道通行止めのため中止								
連番	831	例会No.	一般559	内容	金剛山・水分道	実施年月日	2018/6/17	担当者	杉本(康)、森本
参加者	杉本康夫、森本善博、安岡和子、安本嘉代、前田守、安本昭久、保木道代、西村晶、江本恭子、小川眞裕美、村木とも子、大森朋江、笠松マサエ							参加者数	13
担当者コメント	梅雨に入って雨が続けていたが、タイミングよく梅雨の晴れ間になり参加者も待ちかねたように多数集まってもらい賑やかな例会になった。建水分神社で出発の挨拶を済ませ神社前から歩き出すが、道はあるけれどほとんど歩かれていないようだ。10分ほどで南河内グリーンロードから足谷林道へ入り、林道途中から水分道へと別れる。道すがらアジサイの花も満開であった。50分で最初の休憩をとるがそこには二川原邊小屋の標識がある古びた小屋が建っている。コンクリート作りの頑丈な建物であるが、何のために作られたものかわからないような建物だ。送電線を3本越える頃より尾根の左右が切り立ち甲取坂、鞍取坂、屏風坂と急坂が続く。急坂も終わる頃には青崩からの登山道と合流する。ここからは通いなれた道で山頂広場までと思いきや、山頂広場に直接上がる道が崩落して通行止めになっている。迂回して山頂広場に到着するが、たくさんの人出で山頂広場下の昔井戸があった広場で休憩する。ここも人が多かったがどうにか休憩するスペースを確保することが出来た。あとは早本道の下りが待っている。下りの時間は1時間ぐらいであるが膝の調子を見ながら休憩を1本入れて黒梅谷との合流地点に下山する。今日は大阪の最高気温が29度の予報が出ていたので暑さを覚悟していたが意外と涼しかったので、楽に歩くことができました。 記:杉本(康)								
連番	832	例会No.	一般560	内容	金剛山地・坊領山～金剛山	実施年月日	2018/6/24	担当者	西村(晶)、小椋(勝)
参加者	西村晶、小椋勝久、前田守、安岡和子、西村美幸、脇本勇二、近藤さとみ、小川眞裕美、有永寛、翁長和幸、寺島直子、保木道代、村木とも子、村木正人、杉本康夫、小椋美佐							参加者数	16

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

担当者コメント	先週の山行に引き続き、梅雨の晴れ間の山行になりました、朝方の雨で心配しましたが良くなる方向です。建水分神社から歩き出すのも、先週の水分道と同じです、足谷川を渡り左に折れて少し歩くと上赤坂城跡登山口に着きました。登山道は植林の尾根筋に付けられているので花は少ないですが、梅雨時に咲くガクアジサイの微妙な紫の色合いが何ともいえません。朝方の雨で道はぬかるんで滑りやすく、ズボンの裾は泥だらけです、最初の鉄塔下で小休止 汗が止まりません蒸し暑いです。645mの坊領山を登り、2つ目の鉄塔付近で下って来た登山者が金剛山はこちらの方向ですか、と聞いて来たのでびっくりです、朝方に追い越して行った登山者です、何処で道に間違っただけか不思議です、間違った時は、来た道を戻り、現在位置を特定して、コンパスで方向を定める事が重要です。山に行く時は地図、コンパス、GPSといった用具を活用して道迷いを防ぎましょう。「あれっ！おかしい」と思ったら、「地図を確認」、現在位置が分からない時は、来た道を戻る「分かるところまで戻る」事が基本です。 記:西村(晶)									
連番	833	例会No.	OP261	内容	大峰山系・鉄山	実施年月日	2018/7/1	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者	小椋勝久、板谷佳史、村木正人、村木とも子、小川眞裕美、小椋美佐、大森朋江、江本恭子、杉本康夫、安岡和子、脇本勇二							参加者数	11	
担当者コメント	川迫川沿いの309号線をトンネル西口に向かって走って行くと川迫ダムを過ぎたあたりから正面に二つコブが並んだラクダの背中のようなピークが見えてくる。鉄山だ 鉄山を目印にと行きたいところだがあいにくの曇り空、しばらく車を走らせ大川口から神童子谷の方面に行く林道に入り駐車をする。天気も不安定で蒸し暑いそんな条件の中での鉄山登山、誰も登らないだろうと思っていたが先客の車が2台。好きな人がいるのだなと思いながら準備を始める。準備を済ませ挨拶と行程の説明をし出発、大川口の橋を渡り水位観測の設備に向かう。通路から木製の階段を上がる。ここから這うように上っていく鉄山登山が始まる。しばらく歩くとFixしたロープが現れる最初の急登だ。時よりちらつく雨の中、足元に注意をしながら登る。しばらく急登が続く中、開けたところで後ろを振り返ればバリコヤの頭が見えしばし疲れを忘れさせてくれる。まだまだ急登が続き息を切らせながら、登っていくと草原のような広場に出る。ここからの大峰の風景は圧巻だ。遠くは二上山まで見える、ここで大峰の山々を見ながらの昼食、ぜいたくなひと時を過ごす。しばらく休み鉄山に向かう。杉の根が露出し歩きにくい上滑る。頂上は3畳ほどの広さだが景色は抜群。しばらく景色を見て下山する。思ったより時間がかかったので一気に下山し帰途に着く 記:小椋(勝)									
連番	834	例会No.	一般561	内容	音羽山とビール工場見学	実施年月日	2018/7/8	担当者	野原、翁長	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	835	例会No.	OP262	内容	台高・三津河落山、西大台	実施年月日	2018/7/21~22	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、寺島直子、近藤さとみ、江本恭子、大森朋江、前田守、村木正人、村木とも子							参加者数	9	
担当者コメント	7/21 大和上市駅から3台の自家用車に分乗して大台ヶ原に出発。大台ヶ原駐車場からドライブウェイを少し戻り川上辻から登山道に取り付く。大和岳までの五つのピークの標高は同じぐらいだが、樹林の中あまり人が通っていないようでわずかな踏み跡をたどるが意外と時間がかかる。三津河落山のピークに立つと今までの樹林がなくなり大和岳まで笹原の絶景が目の前に広がる。鹿の群れがこちらを見ながら走り去っていく。大台ヶ原では鹿が増えすぎ植生に大きな影響を与えているそうです。日出ヶ岳から駐車場まで戻り、ビジターセンターで西大台の入山のレクチャーを受け明日に備える。 7/22 西大台地区は森林の植生を守るため立入許可制にして立入人数を調整しているため静かな雰囲気を楽しめます。以前は多くの人でこの地区も荒れていたそうです。入り口で許可証のチェックを受け西大台地区へと入る。展望所まで来ると東ノ川を挟んで遠くに千石岨や大蛇岨が小さく見える。開拓跡は明治時代に開拓が試みられたものの厳しい自然環境のため頓挫したそうです。苔の群生地ではあまり雨が降っていないようで苔本来の美しさが見れませんでした。苔には雨が一番ですね。今の時期花はあまりなくバイケソウの花だけが目立ってあちらこちらに咲いていました。西大台地区は樹林の中なので比較的涼しいが駐車場まで戻ると夏の暑さが余計に身にしみず(大阪に帰りたくな〜い)。 記:杉本(康)									
連番	836	例会No.	一般562	内容	檜ヶ峰〜岩倉山	実施年月日	2018/7/29	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	837	例会No.	一般563	内容	(ベーシック登山No.47)和泉山脈・学文字山	実施年月日	2018/8/5	担当者	翁長、板谷	
参加者	翁長和幸、西村晶、黒澤百合子、馬場美穂子、村木正人、西村美幸、安本嘉代、保木道代、大森朋江、片山純江、喜多田恵美子、和田敬子、村木とも子、安本昭久、板谷佳史							参加者数	15	
担当者コメント	今夏は異常な猛暑。熱中症対策として休憩を小まめにとる事にし、10時過ぎ孝子(きょうし)駅を出発。地元の人たちが手入れをしている孝子の森でひと息入れる。尾根に出るとしっかりした展望台がでてきた。その上からは第2阪和道路をへだてて東側に高野山が見える。285mのピークとは思えない程大きく感じる。目指す学文字山も見えているが大分遠いような感じ。このあたりは多奈川発電所の鉄塔が多い為、巡視路も多い。今は休止中の発電所ではあるが、巡視路はよく手入れがされている。2回ほど間違っって入ってしまった。コースは最近人が入っていないのか、先頭はクモの巣で大変だ。13時過ぎ学文字山北峰に着いた。木陰が涼しい。北側が開けている為、深日(ふけ)の漁港や町がよく見える。多奈川線の電車が小さく見え、おもちゃの電車が走っているようで面白い。岬町おすすめのハイキングコースを下り、14時半過ぎ深日駅近くで解散とした。暑い中、学文字山に登ったので、私でも少しは賢くなれたかも・・・? 記:翁長									
連番	838	例会No.	OP263	内容	黒部川奥の廊下〜黒部川源流	実施年月日	2018/8/10~14	担当者	山倉、板谷	

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

参加者	山倉康次、板谷佳史、小椋美佐、安岡和子、小川眞裕美、江本恭子、脇本勇二			参加者数	7				
担当者コメント	<p>8/11 富山で全員合流後タクシーで折立へ向かいますが朝から雨が降っています、折立につく頃には雨はやみましたが怪しい空模様です。7時30分太郎平に向け出発、長いのぼりの開始です。途中降ったりやんだりの中3回の休憩で11時30分太郎平着、この頃には晴れ間も見えだしました。30分ほど休憩後薬師沢への下降を開始、13時50分薬師沢小屋に入る。小屋は超満員でした</p> <p>8/12 早朝から小屋の内外は出発準備の人々で騒然としています、前日の到着が早かったので朝食は一番組でいただき、5時45分出発。小屋上流から渡渉とへつりの連続となります、冷たい水に慣れていないせいか最初は少し戸惑っていましたが徐々に股下程度の渡渉もスムーズにこなせるようになってゆきました。1回の休憩をはさんで7時35分赤木沢合出の美しい滝に到着、先行パーティーは泳いで通過しようとしています、我々は右岸の高巻で落ち口の上流へ出て一休み。ここからは水量も川幅も徐々に減り順調に高度を稼いでゆきます、渡渉時など時々足元を岩魚が走ります。4回程度の休憩で12時40分黒部源流登山道に入る、ここで廻行を打ち切り三俣山荘へ登り、13時50分小屋着</p> <p>8/13 三俣山荘も早朝からごった返しています、トイレの行列は玄関を越えて外へ出ています、早々に朝食を済ませ5時45分、霧雨の中、三俣蓮華岳へ出発。6時35分視界のない中、三俣蓮華岳に立つ、今回唯一のピーク(2841. 2m)です。ここからは傘をさしてひたすら巻道経由で双六小屋へ・・8時30分着。さらに1時間毎の休憩で弓折岳分岐～鏡平小屋～蒲田川左股林道へひたすら下ります、13時35分ワサビ平着。新穂高温泉まであと一息林道を雑談しながら歩き、15時本日9時間の行動を終えました。雨も大降りにならず、足並みもそろっていただけでほぼ予定通りこなせたと思います、新穂高からは予約しておいたタクシーで富山に出て夜行バスで翌14日帰阪しました。 記:山倉</p>								
連番	839	例会No.	一般564	内容	比良岳(1,051m)～烏谷山	実施年月日	2018/8/12	担当者	野原、大石
参加者	野原勇、大石隆生、三原秀元、保木道代、寄川都美子、黒澤百合子、峯岡宣重、寺島直子			参加者数	8				
担当者コメント	<p>晴天だと陽当たり抜群の比良山。計画時点でもこの時期特有の暑さ、熱中症予防を考えてロープウエーで一気に山頂まで上がる計画としました。ロープウエー山頂駅を降りて最近話題となっている「びわ湖テラス」に先ず立ち寄る。今日は曇天で展望はもうひとつでしたが、このテラスが出来たことによってびわ湖バレイは年間を通じて観光客が押し寄せる集客施設に大変身。夏場は閑古鳥が鳴いていた昔日とは様変わりでびっくりです。また地名も「びわ湖バレイスキー場」からスキー場が削除されて「びわ湖バレイ」に変更されていました。打見山から北に緩やかに続くグレンデを鹿の糞に気を付けながら下降、木戸峠を経て比良岳に向かう。急登ではないがガラガラとした樹林帯の登りが続き、比良岳道標に到着。実際の山頂は5分程度離れた地点にあるのでそこまで足を延ばし昼食大休止。ブナ林の中で展望はなし。昼食後、比良岳道標まで戻り葛川越へ。葛川越から烏谷山まではやや急登が続く。途中振り返るとスタート地点の打見山や蓬萊山、眼下には琵琶湖が一望。烏谷山頂上で小休止。烏谷山は展望があり琵琶湖周辺の山々が見渡せました。烏谷山からは堂満岳方面へ進み荒川峠着。荒川峠から中谷合出下の林道までは荒れているうえに、途中雨も降りだし予想以上に時間を要してしまっ。中谷合出下の林道からは舗装道を辿り志賀駅へ。今回の例会で感じたことですが、今日は山扱い雷雨の予報が出ていました。降水確率に関係なく、また雷雨予報が出ようが出まいが雨具は必携装備です。夏場で1,000m程度の山ならず濡れになっても大事にはなりません、他の季節なら大変な事態になりかねません。登山は最終的には自己責任ということを実感してください。今年の夏は「命の危険を感じる暑さ」という形容詞が付くような天気が続いています。今日は晴天でなく曇り空でまだ恵まれていましたが、暑い中、汗びっしょりの登山、参加メンバーの方々お疲れ様でした。 記:野原</p>								
連番	840	例会No.	一般565	内容	東床尾山	実施年月日	2018/8/19	担当者	小椋(勝)、山倉
参加者	小椋勝久、山倉康次、村木とも子、村木正人、神阪洋子、保木道代、小椋美佐、大森朋江、板谷佳史			参加者数	9				
担当者コメント	<p>大阪駅7時23分発丹波路快速に乗り和田山駅に着いたのが10時48分、3時間20分の長旅、新幹線なら東京を通り越して宇都宮まで行けるのでは。和田山駅からタクシーに分乗し時間がないので糸井のカツラの木まで行ってもらう。車から降りると目の前にカツラの木が悠然とそびえたっている。確かに大きい、しばし眺めた後、広場で挨拶を済ませ登り始める。沢沿いに歩いていくが最近の大雨で登山道も荒廃しており歩きにくい。県立公園といえどもここまで手が回らないのかと思ながら歩く、途中鉦山跡などがあり見どころは満載だ。尾根までの登山道は樹林帯の中で暑い、汗をかきながら九十九折の登山道を登攀し稜線に出ると明るく風通しがよく快適な尾根道になる。朽ち果てた避難小屋を横目に歩いて行き最後の坂を上ると東床尾山山頂に着く。そこは360度の展望、まったく遮るものはなく西は氷ノ山から北は天橋立がある久美浜湾、東は大江山から南の山々までの眺望。頂上で昼食をとり西床尾山へ向かう、西床尾山までの稜線も樹木の種類、空間、景色などのバランスがとれて綺麗で歩きやすい。西床尾山で最後の休憩をし、急な尾根道を下降し始める。時間がないので少し急ぎ足になる。荒れた登山道を歩き林道合出に出てタクシーを待った。 記:小椋(勝)</p>								
連番	841	例会No.	一般566	内容	高野山・黒河道	実施年月日	2018/8/26	担当者	杉本(康)、森本
参加者	杉本康夫、森本善博、安本昭久、飯尾廣子、安岡和子、板谷佳史、保木道代、小川眞裕美、安本嘉代、村木正人、村木とも子、江本恭子、西村晶、西村美幸、大森朋江			参加者数	15				
担当者コメント	<p>高野山に至る「高野七口」と呼ばれる街道のうち黒河道は、橋本から高野山への近道とされ大和の国からの参詣人が多いことから「大和口」とも呼ばれていました。また太閤秀吉も高野参詣の帰途に通ったという記録もあるそうです。アップダウンが厳しいため西の京大坂道を利用されるようになり古道として残された様です。8月下旬にもかかわらず依然として猛暑が収まらず厳しい暑さの中少しでも日陰を探しながら出発する。橋本駅からしばらくは旧村の舗装された道と交錯しながら柿の木畑を過ぎるころには木々で日陰が多くなり暑さもしのげるようになりました。また、舗装された道はほとんどなく近代の交通路から外れたことで古道らしさが残され、道すがら観音様や地藏様などが昔の面影をしのべられます。世界遺産に登録され、標識番号も立てられて番号が増すにつれゴールに近づく楽しみもあって歩くしんどさも励みにもなります。子継峠(粉撞峠)で黒河道の標識番号が終わり、また女人堂との合流点にもなっていて子継地藏が祀られています。ここからは先、道巾も広くなり大勢の人で混みあうようになってきました。弘法大師御廟に手を合わせて本日の登山の無事を感謝しました。 記:杉本(康)</p>								
連番	842	例会No.	OP264	内容	比良・口ノ深谷廻行	実施年月日	2018/9/2	担当者	板谷、大石

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

参加者	板谷佳史、大石隆生、小川眞裕美、脇本勇二、村木とも子、保木道代、前田守、山倉康次、村浪義光、江本恭子、小椋美佐			参加者数	11				
担当者コメント	<p>少しでも遡行時間を捻出するため、大阪駅乗車時刻を早め、堅田からはタクシー使用。坊村で敦賀からの村浪さんと合流し、40分ほど明王谷の林道を歩く。久々の比良の谷歩きだ。順調に遡って行くが、11名パーティが悪場を通過するには時間がかかる。慎重を期してロープを使用するとなると、なお更瞬間に時間が過ぎて行く。谷の中間付近右岸にある炭焼窯跡を通過した時点で坊村からの帰りの路線バス乗車は諦めるが、ここまで来たら明るいうちに遡行終了点に達するしかない。その先顕著な狭い岩の隙間を通過する箇所が11年前のシーンがよみがえった。まだ充分明るい17時過ぎ登山道と出会うことができホッとする。予報と違ってポツポツの雨もすぐに止み、ヒルとの遭遇も皆無でよかった。その先は知れた登山道、御殿山を下降する頃にはヘッドランプのお世話に..それにしても遅すぎる、次回からの計画時にはもっと考えなければいけないと思いつつ、坊村への夜道を急ぎ20時過ぎに坊村着。帰ってから2007年の同ルートの記録を確認すると今回は2時間以上遅いペース、リーダーも10年前と同じ調子で行けるとは思っていないということだ。反省 記:板谷</p>								
連番	843	例会No.	OP265	内容	城ヶ森山	実施年月日	2018/9/2	担当者	小椋(勝)、翁長
参加者				参加者数					
担当者コメント	中止								
連番	844	例会No.	一般567	内容	南宮山 歴史探訪シリーズ No.40	実施年月日	2018/9/9	担当者	小椋(勝)、杉本(康)
参加者	小椋勝久、杉本康夫、村木正人、神阪洋子、保木道代、三原秀元			参加者数	6				
担当者コメント	<p>大阪は晴れ時々曇り、これなら今日の山行は大丈夫だと高をくって出発したものの米原で乗り換え大垣方面へ向かう列車に乗り換えると雨模様、垂井駅で降りてホームから出るところには土砂降りの雨、早々雨具を出して出発したが歩き始める頃には雨も上がる。蒸し暑い中、南宮大社を通り抜けハイキングコースに入っていく。稲荷神社を過ぎ害獣除けのフェンスをくぐると安国寺恵瓊の陣跡が現れる。ここから北に吉川広家の陣があり吉川が動かなかった為敗戦の一因になったのかと思いを巡らせながら先に進む。時折降る雨はより一層不快感を誘い風も無いため汗ビショリになる。湿度100%に思える。そんな中、毛利の陣跡に向かうが、陣跡に着くと心地よい風が吹き霧も晴れていく。まさに関ヶ原の合戦当日の天候。陣跡から見る濃尾平野が霧が晴れるとともに全体が見えるようになる。なるほど関ヶ原に向かって戦いが移動していく様子が手に取るようにわかる。やはり現場に来ないとわからない。陣跡で少し話をして南宮山の三角点へ向かうが相変わらず暑い。汗ビショリになりながら南宮山最高点に到着し下山、帰りに南宮大社に参拝し垂井駅へと向かう。今日は三原さんが同じ秀元だからと参加してくれました。毛利秀元の陣跡から見える景色に三原さんも感激したのでは。 記:小椋(勝)</p>								
連番	845	例会No.	OP266	内容	北ア・槍ヶ岳～大キレット	実施年月日	2018/9/12～15	担当者	野原、山倉、森本
参加者				参加者数					
担当者コメント	中止								
連番	846	例会No.	OP267	内容	劔岳北方稜線・赤谷山、中山	実施年月日	2018/9/15～17	担当者	西村(晶)、板谷
参加者				参加者数					
担当者コメント	雨天中止								
連番	847	例会No.	OP268	内容	新潟・越後駒ヶ岳～中ノ岳縦走	実施年月日	2018/9/21～24	担当者	板谷、杉本(康)
参加者	板谷佳史、杉本康夫、安岡和子、小川眞裕美、脇本勇二、村木とも子、小椋美佐、江本恭子、保木道代			参加者数	9				
担当者コメント	<p>9/21 9月に入って台風や秋雨前線により晴天が少ない。今回も一日目は雨を覚悟でナンバ、梅田、京都から高速夜行バスに乗車してJR長岡駅へ向かう。</p> <p>9/22 上越線に乗り継いで小出駅からジャンボタクシーで枝折峠へ..、降り立つとかなりの雨脚だ。すでに長岡駅で雨覚悟の準備をしてきたのですぐに駒ノ小屋に向けて出発する。時々止んでまた降るの繰り返し、幸い風はほとんど無いので傘で十分しのげる。眺望皆無の我慢の登高を続けて樹林帯を抜ける頃には雨もすっかり上がる気配で爽やかな空気の中、駒ノ小屋管理人が迎えてくれた。小屋内では火気禁止、屋外でとの決りあり炊事が多少不便だが小屋のマットや毛布を借りることができ、ビールも分けてもらったのでありがたい夜を過ごす。偶然の再会だが、この管理人は魚沼出身である脇本さんの同級生だった。</p> <p>9/23 小屋前で朝日を拝みながらの炊事と朝食となる。今日は雨の心配は無いし、泊地の中ノ岳避難小屋まで6時間程度の行程なのでゆっくりの出発とした。少しの登りで越後駒ヶ岳山頂に立つ。そこから中ノ岳までの主脈縦走路はいくつも岩峰を越えて行く岩混じりのルートで多少の気遣いが必要だ。左に荒沢岳、右に八海山といういずれも急峻で立派な岩山を間近に眺めながらの縦走である。そろそろ紅葉が始まった鮮やかな斜面を愛でながら早いうちに中ノ岳避難小屋着。念のため今日のうちに中ノ岳山頂を往復しておく。この小屋には管理人は居ないし火気禁止でもない、小屋内で炊事で快適な夜を過ごした。</p> <p>9/24 駒ノ小屋では吹き曝しの屋外でガスを焚いたので消費量大となり残量が心配だったが、それも杞憂に終わり、朝日を浴びながらの最終日の出発に心躍る。再び中ノ岳山頂を踏んだ後、遠く会津、日光、尾瀬、谷川、妙高火打等までの大展望を眺めながら主脈縦走路を行く。まもなく十字峡への尾根の下降に移る。高度を下げると暑い日差しの中となり疲れた足を引きずりながらの急下降が続く。ようやく十字峡に下山完了し、迎えのタクシーを待った。六日町駅に出て解散となりました。 記:板谷</p>								
連番	848	例会No.	一般568	内容	六甲・菊水山～鍋蓋山	実施年月日	2018/9/30	担当者	大石、野原
参加者				参加者数					

2018年度('17/11~'18/10)EPEクラブ活動報告

2018/10/E現在 板谷

担当者コメント	雨天中止														
連番	849	例会No.	OP269	内容	立山・楯崎山	実施年月日	2018/10/6~8	担当者	西村(晶)、大石						
参加者								参加者数							
担当者コメント	雨天中止														
連番	850	例会No.	一般569	内容	金剛山・天ヶ滝道	実施年月日	2018/10/7	担当者	山倉、杉本(康)						
参加者	山倉康次、杉本康夫、保木道代、馬場美穂子、大森朋江、小川眞裕美、脇本勇二、岩本和行							参加者数	8						
担当者コメント	台風一過で晴天の御所駅前まで頼んでおいたタクシーに分乗し、五条市小和町の登山口へ向かいます、ナビのないタクシーでちょっと迷いましたが8時45分登山口に到着、挨拶を済ませ天ヶ滝道へ、沢筋右岸の植林に囲まれた道をまずは天ヶ滝へ登り9時50分ベンチのある滝降り口で休憩、わりと立派な滝でした？、さらに植林の中を1回の休憩をはさみ10時50分伏見峠着、登山口では晴れて稜線に少し雲がかかっている程度でしたが、登り中はほとんど雲の中で季節のわりに蒸し暑く汗が出ます、ちはや園地のキャンプ場で休憩、キャンプ場の炊事場にはピザ窯が設えてあり、有料で使用できるようです。11時35分葛城神社着、ここで記念写真を撮り頂上広場へ11時45分着、広場ではテントを張ってちょっとした登山用品の販売があり、到着早々休憩食事も後回しです、12時30分まで休憩し、千早本道を下り13時35分下山し解散としました。アプローチが不便で平凡なこのコースに入る人は少ないようです、今回私たちは近鉄御所駅からタクシーを利用しました、JR和歌山線の北宇智駅からスタートする事も可能ですが、天王寺駅から奈良線王寺～和歌山線経由では昼頃になりそうです。記：山倉														
連番	851	例会No.	OP270	内容	百間山	実施年月日	2018/10//20~21	担当者	小椋(勝)、板谷						
参加者	小椋勝久、板谷佳史、岩本和行、村木正人、小椋美佐、安本嘉代、保木道代、大森朋江							参加者数	8						
担当者コメント	今回、登山予定の百間山キャンプ場付近は平成23年の水害で深層崩壊が発生し数人の方が亡くなられています。その影響で、キャンプ場は閉鎖されているため、大塔青少年旅行村に泊まりました。水害や相次ぐ台風などで事前に大塔行政区に連絡して登山道について尋ねましたが犬落ちの滝までは確認できましたがそこから先は未確認との事。不安を抱きながらの出発！現地駐車場に到着して回りを見るとまだ水害の跡が残っており復興工事中。渓谷入り口も以前と様相が変わっていて、より一層不安が募るが入山してみると渓谷のほうは水害の影響は少ないようだ。秋の冷たい空気の中、ふたおい釜の滝、雨乞の滝、絵に描いたように静かにたたずむ犬落ちの滝を見ながら百間山登山口に向かう。その間渡渉もありなかなか面白い。百間山登山口からの登攀は急登の連続、最後の急登を息を切らせながら登山頂に着くと雲ひとつない青空の下、風は心地よく、遠くは大峰の山々まで見渡せる事が出来ました。山頂で昼食を済ませ下山後、千体仏を見て渓谷を下降する！午後3時に下山し駐車場で解散の挨拶をして帰途に着く。今回、諸事情で車で移動の時、道を間違え時間のロスが発生した上、帰路の高速は大渋滞！南紀の山に登る時は交通事情も考慮しなければと大反省しました。記：小椋(勝)														
連番	852	例会No.	一般571	内容	青山高原・髻山	実施年月日	2018/10/28	担当者	杉本(康)、翁長						
参加者	杉本康夫、翁長和幸、板谷佳史、村木正人、大森朋江、村木とも子、小川眞裕美、佐野雅美、寺島直子、脇本勇二、安岡和子							参加者数	11						
担当者コメント	東青山駅前が「四季の里」として綺麗に整備されていてシーズンともなればさぞかし綺麗な花でよりいっそう華やかになるだろうと思うような所です。遠くには風力発電の風車も見えています。布引の滝へは四季の里の左側の縁を回るように道や標識も整備されていて歩きやすいコースです。国土地理院地図と重ね合わせると道が交錯していてわかりにくいので、1時間弱で近鉄電車の旧トンネル跡に着きました。近鉄が単線から複線化したことで廃線になったところで、緑の綺麗なのんびりと憩えるような所です。滝見展望台まで来ると布引の滝が眺められ白布が垂れるように見えることから名付けられたようで綺麗な滝です。滝は4段の滝の総称でそれぞれに名前が付けられています。下から大日滝、飛龍の滝、霧生の滝で1つは無名滝です。飛龍の滝の所で沢を渡ると、そこには「三瀑宣傳者大倉翁碑」と彫られた石碑が建っていました。滝を過ぎしばらく沢沿いに登っていくと傾斜も緩くなりZTV(津市のケーブルテレビ)の標識がありこの付近一帯の山林の所有者のようです。最後の急傾斜を登るとレストランが現れそれと同時に多くの人と今までの静けさから一転喧噪の世界になりました。レストランから100mほど登ると髻山の三角点ピークに到着です。風が強くと目の前には東青山駅で見た風車の大群が建てられているのもうなぞげます。ここからは別荘地といってもほとんど建物のない急傾斜の中の道を2時間弱で西青山駅に到着し解散しました。記：杉本(康)														
一般例会(新年会含む) :		44回 / 464名		オプション例会 :		21回 / 199名		例会合計 :		65回		参加者総数 :		663名	